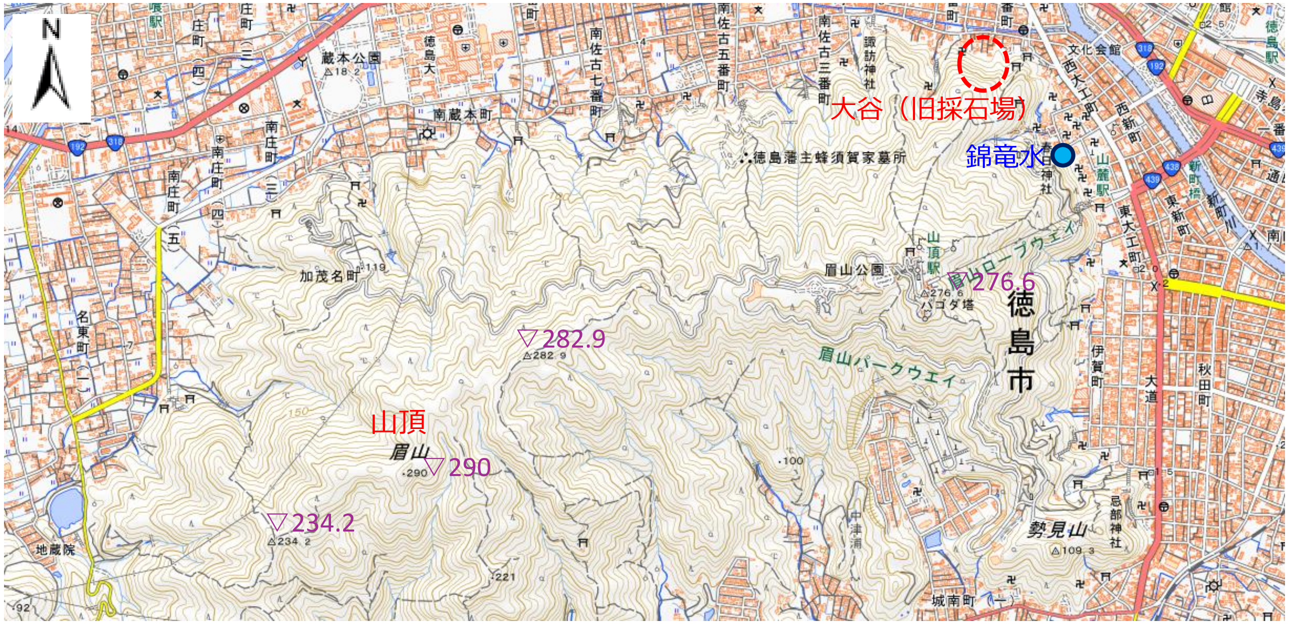
資料３

眉山活性化基本方針の策定について

3-1　眉山の地勢、歴史

眉山の地勢



出典：国土地理院GSI Maps

- 市中心部に在り、標高▽290mの緩やかな小高い山
- 北向き斜面の方が南向き斜面よりも急勾配（地質に起因）
- 地質（基岩）は三波川変成岩
- 藍閃石片岩（青石）や紅簾石片岩の世界的な分布域として岩石愛好家に知られている
- 現在は風致地区となり採石場はない
- 石材（青石）のほかに鉱山もあった
- 錦竜水などの名水が市民に利用されている

出典：20万分の1日本シームレス地質図V2（©産総研地質調査総合センター）

旧徳島城表御殿庭園
枯山水に架かる青石橋

錦竜水
殿様が愛した飲料水

写真出典：徳島市

眉山 未来プロジェクト
BIZAN MIRAI PROJECT

眉山の防災

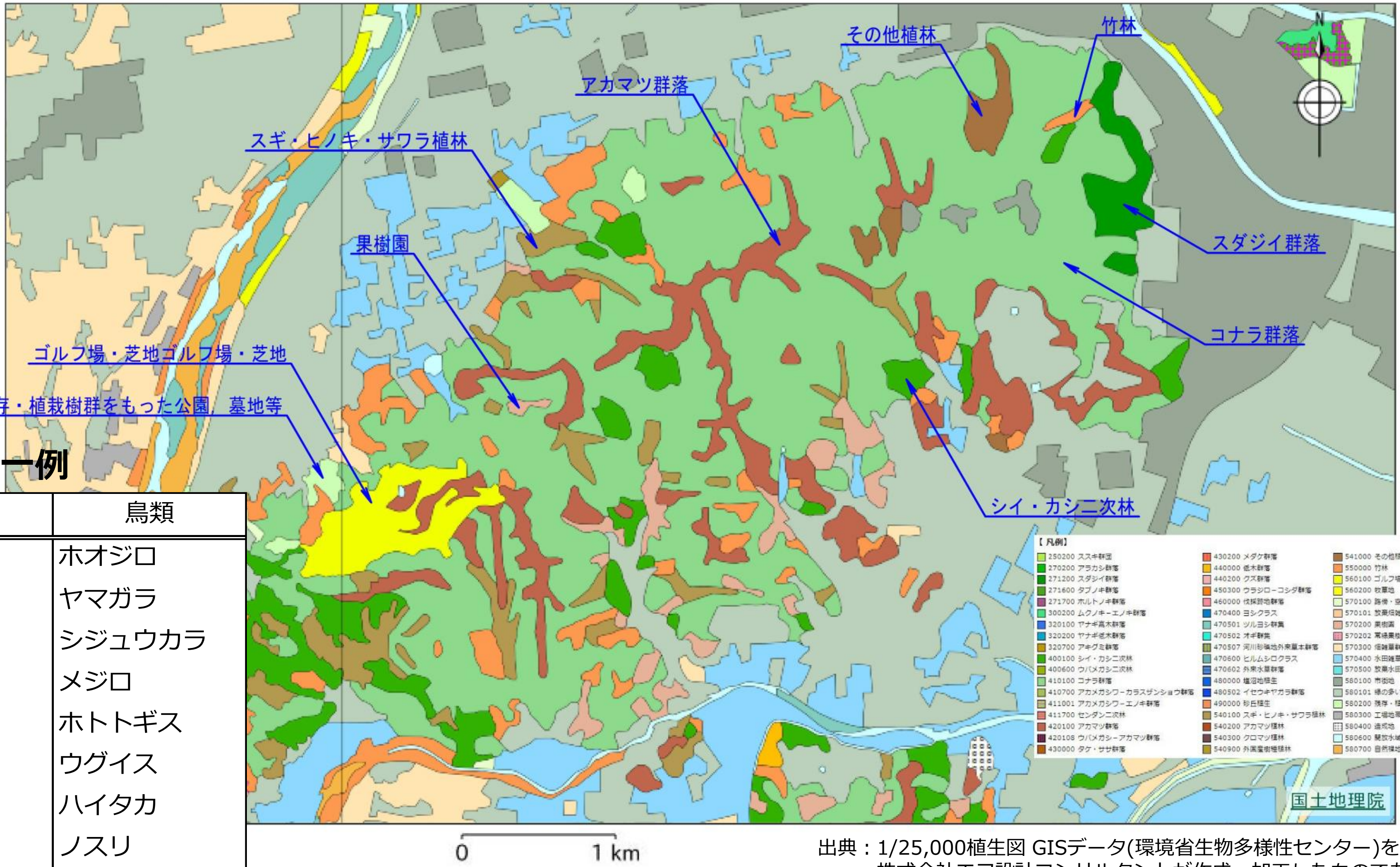
土砂災害警戒区域等の指定状況

眉山周辺は市街化が進み、多数の土砂災害の危険個所が指定されている

出典：徳島県水防・砂防情報マップ

眉山の植生

植生図



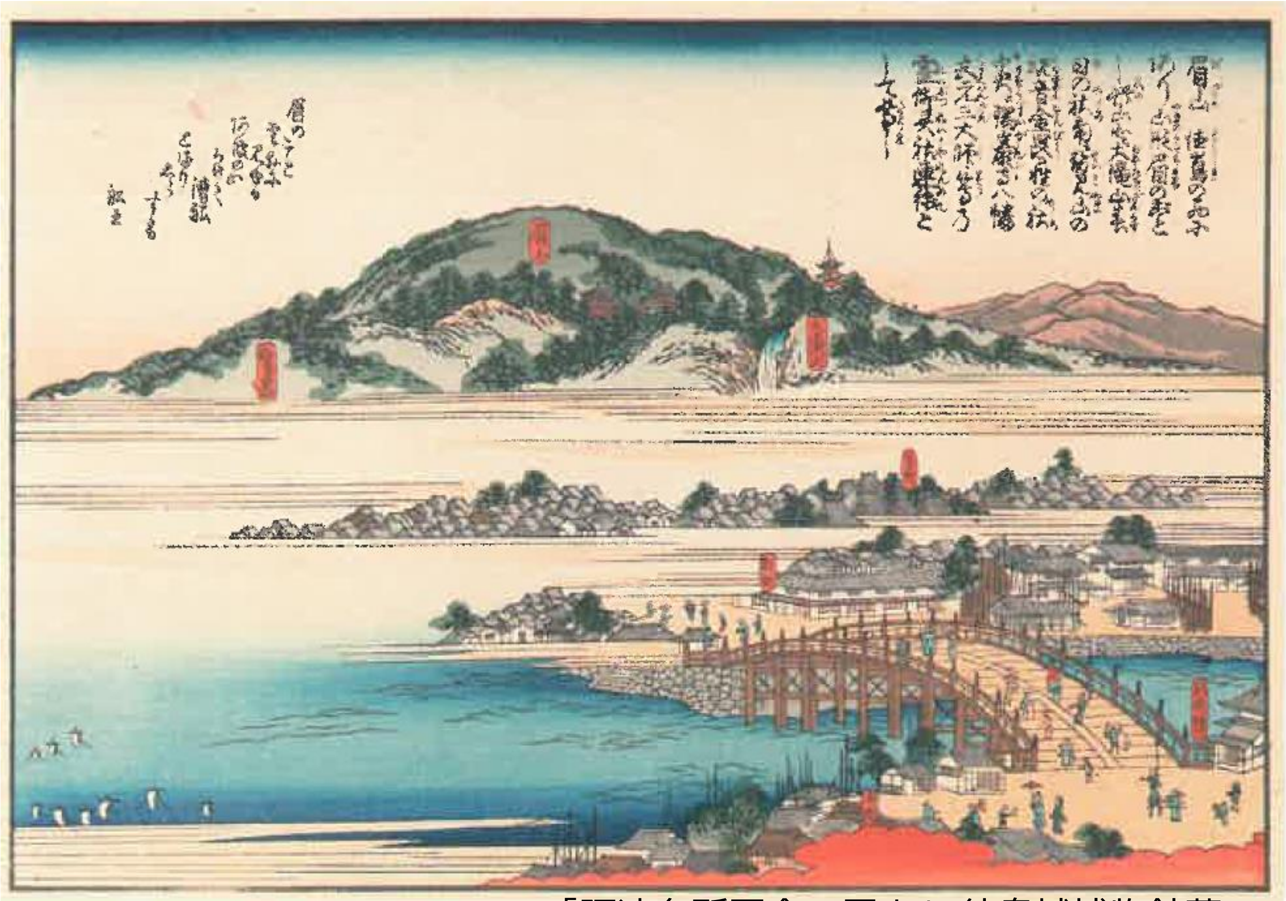
出典：1/25,000植生図 GISデータ(環境省生物多様性センター)を使用し,
株式会社エフ設計コンサルタントが作成・加工したものである。

生態系の一例

哺乳類	鳥類
イノシシ	ホオジロ
キツネ	ヤマガラ
サル	シジュウカラ
タヌキ	メジロ
イタチ	ホトトギス
ムササビ	ウグイス
	ハイタカ
	ノスリ

眉山の歴史

「眉のごと　雲居に見ゆる　阿波の山　懸けて漕ぐ舟　泊り知らずも」
『万葉集』巻六・雑歌　船王



「阿波名所図会・眉山」 徳島城博物館蔵

- 観念的な表現、眉山を特定したものではない
- 眉山の地名は奈良時代に存在した訳ではない

- 江戸時代中期
  庶民にはなじみ無く
  江戸時代後期に定着
- １８世紀後半『阿波志』
  眉山の名称は船王の歌から
  成立　※諸説あり

富田山・佐古山・名東山
福万山・柿谷山・長谷山
大滝山・勢見山・万年山　等

以前は、山麓の地名や寺社等との関係から呼ばれていた

眉山の歴史

林鼓浪筆　徳島城博物館蔵

▲大滝山：信仰から観光へ

江戸時代	藩祖蜂須賀家政の 徳島の町づくり始まる 中腹や山麓に寺院や神社が集まる
明　　治	大滝山公園、徳島市最大の行楽地
大　　正	大滝山を含む眉山公園の 整備拡張計画
昭　　和	観光利用の機運は戦前まで続く 空襲により灰塵に帰す 戦後復興、花見の時期等は 多くの人で賑わった

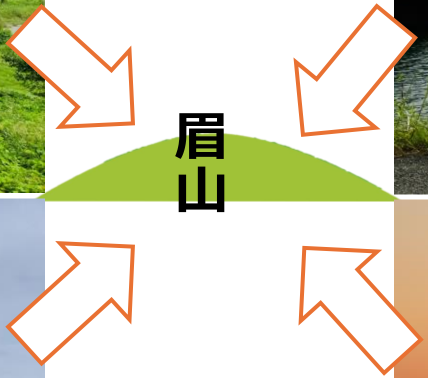
▲勢見山：山名は源平争乱の頃の源義経に由来
藩祖蜂須賀家政が勝占神社境内にあった
金毘羅大権現を移した

▲万年山：蜂須賀家の儒式墓所
藩主や明治以降の当主など６０人以上が
埋葬されている

眉山のある風景

中鮎喰橋

吉野川橋



勝浦浜橋

阿波しらさぎ大橋